

次世代自動車センター浜松 活動レポート Vol. 339

■ デジタルものづくり対応支援事業  
 第2回サイバーセキュリティ対策ワークショップ（会員限定）

近年のデジタル化の進展に伴って、外部からのサイバー攻撃による工場の操業停止や個人情報流出などの被害が急増しています。

製造業においても、仕入先の部品メーカーが被害を受けたことにより完成車メーカーの生産が停止するなど、サプライチェーン全体に影響する事例も発生しており、サイバーセキュリティ対策の強化が急務となっていますが、多くの中小企業では「自社のような規模の企業は大丈夫」「具体的に何をしたらよいかわからない」などの理由で、対策・対応が遅れています。

次世代自動車センター浜松では、今年度の第2回目として、当センターの仲元技術コーディネーターが講師となって、サイバー攻撃対応の机上演習及びサイバーセキュリティBCPの模擬策定演習として、「サイバー攻撃が発生した場合に迫られる対応」や「サイバー攻撃の被害の低減や復旧の迅速化のための対策の立て方」などについて、参加企業の皆様が、自ら考えながら学ぶ「サイバーセキュリティ対策ワークショップ」を開催しました。

- 日 時 : 2026年3月9日(月) 14時~16時40分
- 場 所 : グランドホテル浜松
- 参加者 : 11社/22名

<開会・挨拶>



<グループワーク1:サイバー攻撃対応机上演習>



<グループワーク2:サイバーセキュリティBCPの策定演習>



<全体総括>



## 【参加者の声】

### (全体)

- ・未然防止が大切だが、被害を想定した対策も重要と参考になった。
- ・初動対応と事前準備の大切さがよくわかった。
- ・自社の足りている点、足りない点の把握ができた。
- ・現在、見直しを検討しているネットワークセキュリティ面での改めて考え方を改めるきっかけとなった。
- ・普段あまりしっかりと考えてサイバー関連について何かを行うことがなかったので、大変有意義でした。
- ・サイバーセキュリティ BCP の必要性を再認識することができた。
- ・BCP は策定しているが、サイバー攻撃に対応できていないことがわかった。
- ・社内で BCP 事務局を担当していてサイバーセキュリティ対策についての進め方がイメージできた。
- ・当社以外の考え方を聞くこともでき、自社の対応を改めて感じる事ができた。

### (グループワーク 1)

- ・初動対応の重要性を理解できた。遅くなれば被害が大きくなる。
- ・自社に置換えても考え、導き出しを試してみた。短時間で想定ができなかった回答は自社でも準備が不足している点かと実感することができた。
- ・図を描くことで詳細の把握を認識できた。
- ・サイバー攻撃を受けた際は時間との闘いということが理解できた。
- ・身近なこと、中小企業の立場で考える内容だったので参考になった。
- ・未然防止、被害低減／復旧迅速化が必要と認識できた。バックアップが必要。

### (グループワーク 2)

- ・BCP 演習が自社システムで置き換えを考えるきっかけとなった。
- ・BCP は大規模災害を基に作っているの、サイバー攻撃に対応できないことがわかった。
- ・簡単な手順でリカバリー可能なことほどマニュアル化されていないことに気付かされた。
- ・影響の大きいシステムでも対策をとっていないものがあると気付いた。
- ・策定手順が理解できた。
- ・優先度を付けることは大切と考えた。
- ・具体的なシステムを想定して必要なアクションをイメージできた。
- ・自社の情報資産を元に演習できたのでわかりやすかった。